



千海寺の跡

破ってくれよう」と、寺内にひそんで、その様子をうかがっていた。

丑満の頃、案のじようズイトンボーと雨戸を叩く音がした。

それと躍り出て引捕えて打殺して見ると、年老いた狸だった。

今も観音堂の北の方に、清水の出る所がある。ここをズイト

ンボと呼んでいる。清水は寺があつたとき使つた清水という。

(「岩瀬郡誌」より)

猫の踊り

《矢田野》

村に一人暮らしの老婆がいた。老婆は一匹の年老いた猫を可愛がっていた。

ある時、不思議なことに気がついた。前日に洗って置いた手拭が、朝になると泥によごれてなげであるのだ。そんなことがたびたびなので、ある夜、注意してみると、家の猫が手拭をくわえて出て行くところであつた。老婆は不思議に思つて、その後をついて行くと、稲荷様の森についた。一目見て驚いたことには、そこには大勢の猫が集まり、唄をうたいながら踊りを踊っていたのである。

その唄の文句には、